

令和2年2月18日

報道機関 各位

赤ちゃんとの愛着形成において分娩様式は関係なかった (エコチル調査より)

富山大学附属病院周産母子センター センター長 吉田文俊特命教授らのグループは、帝王切開と通常の分娩で出産した母親の対児愛着（ボンディング）の傾向を調べたところ、[帝王切開と関連してボンディングが悪くならない](#)ことを「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」から明らかにしました。

これまで、帝王切開での出産はボンディングに悪影響があるとする報告もありましたが、解析の対象者において、悪影響は少ないものでした。この度の研究結果は、約 83,000 人の母親を対象に、初産婦と経産婦に分けて帝王切開がボンディングにほぼ影響しないということを示した、より精度の高い結果です。

本研究により、帝王切開でのお産が母子関係悪化のリスクにはならないことが示唆されました。

この研究成果は精神医学系専門誌「Journal of Affective Disorder」に2020年2月15日付で、オンライン掲載されました。

※本研究は環境省の子どもの健康と環境に関する全国調査に係る予算を使用し行いました。論文に示した見解は著者自らのものであり、環境省の見解ではありません。



研究の内容

「対児愛着(ボンディング)」は母親から子どもに向けられる情緒的な関心や愛情のことで、母親が子どもの世話をしたり、守ったりする動機づけにもなります。

一方で、自分の子どもに対して愛情がわからず、世話をし、守りたいという感情が弱く、イライラしたり敵意を感じたり攻撃したくなるような「ボンディング障害」の症状に苦しむ人もおられます。「ボンディング障害」は虐待を含むマルトリートメント(不適切な養育)につながる危険性も示唆されており、子どもの成長や発達に悪影響を与える場合もあります。

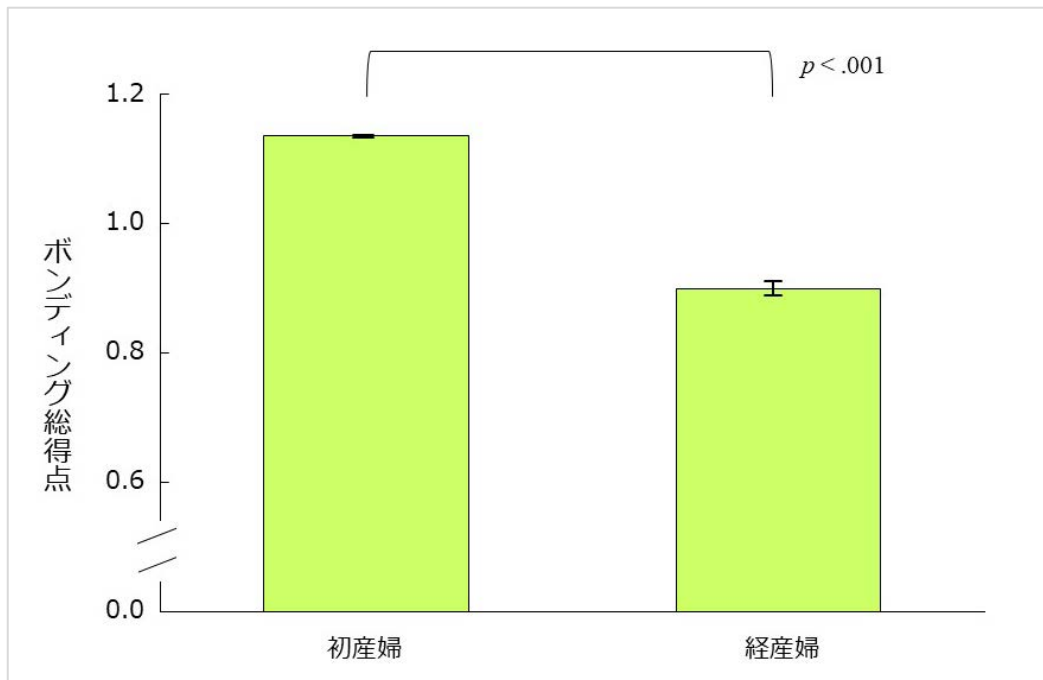
富山大学の研究グループは以前に、産後うつに関連してボンディングが悪くなることを明らかにしました(Tsuchida et al., Journal of Psychiatric Research 2019, Kasamatsu et al., Psychological Medicine 2019)。しかし、産後うつのほかにも、妊娠への否定的感情、配偶者との関係、子の夜泣き、文化的に男児が重んじられる地域では女兒であること、帝王切開による出産などが、ボンディング障害のリスクであると報告されてきました。

今回の研究では、上記のうちの帝王切開に着目し、エコチル調査に参加しているお母さん約 83,000 人の産後 1 年時点のボンディングの程度を評価し、帝王切開のリスクを検討しました。

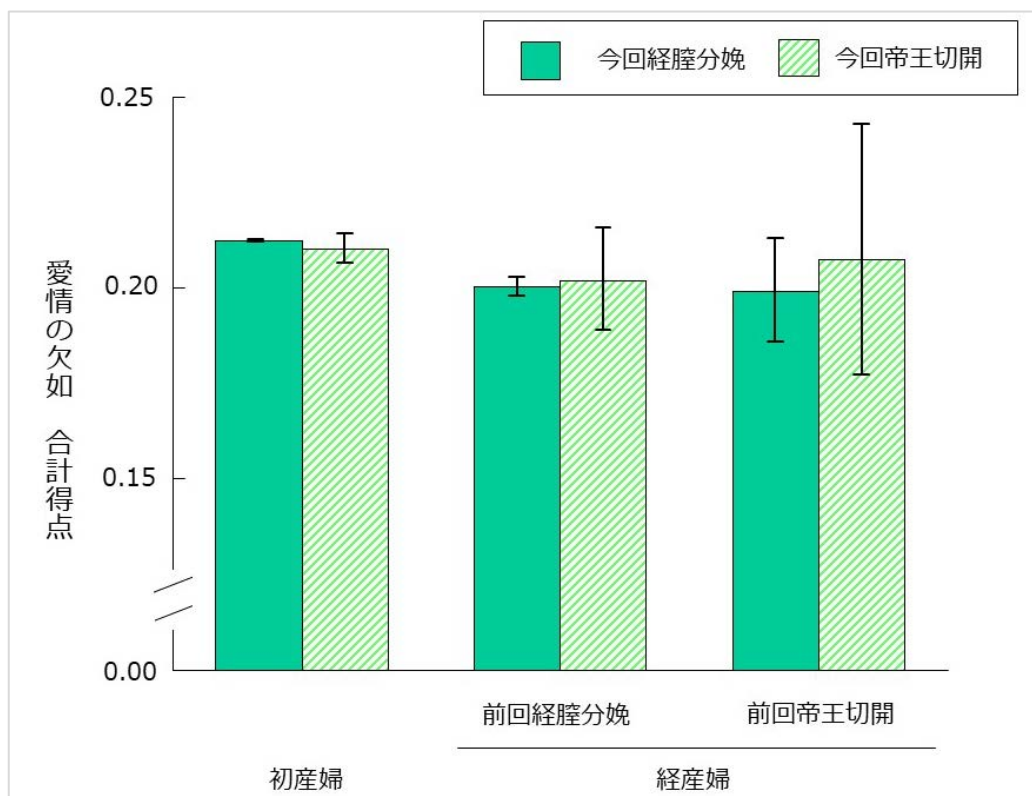
ボンディングは、赤ちゃんへの気持ち質問票を用いて評価しました。この質問票は、10 の質問に回答することで、0~30 点の得点を算出し、点数が高いほど赤ちゃんに対して否定的な気持ちであるとされています。また 10 の質問のうち 4 つの質問から「愛情の欠如」、また別の 4 つの質問から「怒りと拒絶」を示す気持ちの傾向(「因子」と呼びます)についても検討を行いました。

帝王切開は、初産で帝王切開になると次の出産時にも帝王切開での出産が選択される場合が非常に多く、これを反復帝王切開と呼びます。また、初産婦と経産婦ではボンディングの傾向がそもそも異なっているため、初産婦と経産婦に分けて、帝王切開になったか否かの比較を行いました。そのうち、経産婦については、反復帝王切開で帝王切開になった人と、2 回目以降の出産で初めて帝王切開になった人に分けて、帝王切開がボンディングに与えるリスクを検討しました。

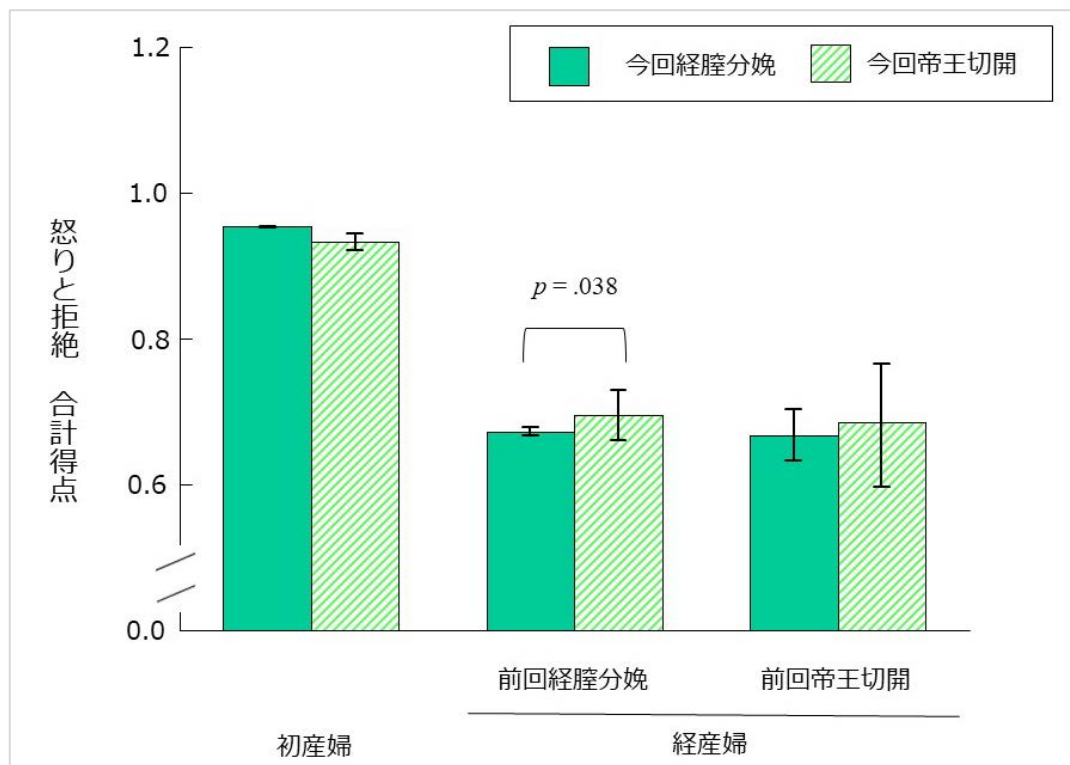
まず、ボンディングの総得点を初産婦と経産婦で比較したところ、初産婦のほうが高い、すなわち、ボンディングがやや悪くなる傾向が明らかになりました。



次に、「愛情の欠如」について、経膈分娩と帝王切開で比較したところ、初産婦および経産婦のいずれも経膈分娩と帝王切開で差はみられませんでした。



「怒りと拒絶」については、経産時点で初めて帝王切開になった人は、経産時に帝王切開にならなかった人よりもやや高い値を示しました。ただし、統計学的有意差は出ましたが、その差は非常に小さなものであり、帝王切開の方がリスクがあると示せるほど大きなものではありませんでした。



以上のように、分娩経験別に細かく検討しても帝王切開によってボンディングが著しく悪くなるという傾向はみられませんでした。帝王切開は今や全分娩の約2割近くを占めており、多くの方が経験します。帝王切開の出産でもボンディングに悪影響がないことを示せたことは、これから出産を迎える妊婦さんにとっては安心材料となる情報かと思います。

しかしながら、本研究では、反復帝王切開や多胎出産などで母親に事前に帝王切開を知らせる「予定帝王切開」と、母体や胎児に問題があつて行う「緊急帝王切開」を区別して検討できていません。これまで問題が指摘されたのは、「緊急帝王切開」に限定したものであったので、今後は「緊急帝王切開」について詳細な検討が必要と考えられます。

※この研究成果は精神医学系専門誌「Journal of Affective Disorder」に2020年2月15日付で、オンライン掲載されました。

ちょっと詳しく

ボンディングとは？

母親が子どもを愛し、世話したい、守りたいと思う情緒的絆のことを指し、一般的にボンディングと呼ばれます。この感情を評価するために、イギリスの研究者 Kumar と Marks らが「Mother-Infant Bonding Scale」を開発しました。各質問は赤ちゃんへの肯定的・否定的な気持ちを探るもので、0, 1, 2, 3 点の 4 件法で回答し、各回答からの得点で評価します（点数が高いと否定的な感情が強いとみなします）。日本では、九州大学の吉田らが翻訳し、赤ちゃんへの気持ち質問票として確立しました。

赤ちゃんへの気持ち質問票

- 1) 赤ちゃんをいとおしいと感じる
- 2) 赤ちゃんのためにしないといけない事があるのに、おろおろしてどうしていいかわからない時がある
- 3) 赤ちゃんの事が腹立たしく嫌になる
- 4) 赤ちゃんに対して何も特別な気持ちがわからない
- 5) 赤ちゃんに対して怒りがこみあげる
- 6) 赤ちゃんの世話を楽しみながらしている
- 7) こんな子でなかったらなあと思う
- 8) 赤ちゃんを守ってあげたいと感じる
- 9) この子がいなかったらなあと思う
- 10) 赤ちゃんをととても身近に感じる

参考：公益財団法人 母子健康協会

http://www.glico.co.jp/boshi/futaba/no77/con01_03.htm

帝王切開

妊婦さんもしくは赤ちゃんに、何らかの問題が生じて経膈分娩が難しい場合に、子宮を切開する手術によって出産する方法。現在、全出産の約 20% の出産が帝王切開による分娩になると言われています（本エコチル調査では 18.7% でした）。



【「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」とは】

子どもの健康や成長に影響を与える環境要因を明らかにし、「子どもたちが安心して健やかに育つ環境をつくる」ことを目的に2010年度に開始された大規模かつ長期に渡る疫学調査です。妊娠期の母親の体内にいる胎児期から出生後の子どもが13歳になるまでの健康状態や生活習慣を2032年度まで追跡して調べることをしています。

エコチル調査の実施は、国立環境研究所に研究の中心機関としてコアセンターを設置し、国立成育医療研究センターに医療面からサポートを受けるためにメディカルサポートセンターを設置し、また、日本の各地域で調査を行うために公募で選定された15の大学に地域の調査の拠点となるユニットセンターを設置し、環境省と共に各関係機関が協働して行っています。

富山大学は、富山市、滑川市、魚津市、黒部市、入善町、朝日町を調査地区とする「富山ユニットセンター」として本調査に参加しています。

- 環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」WEB サイト
<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/index.html>
- 富山大学 エコチル調査WEB サイト
<http://www.med.u-toyama.ac.jp/eco-tuc/>



(本件に関するお問い合わせ)

国立大学法人富山大学 附属病院周産母子センター
担当 吉田文俊

TEL : 076- 434-7313

Fax : 076- 434-5029

E-mail : ytake@med.u-toyama.ac.jp

(エコチル調査全般に関するお問い合わせ)

国立大学法人富山大学 エコチル調査富山ユニットセンター
担当 浜崎 景

TEL : 076-434-7279

Fax : 076-434-5023

E-mail : keihama@med.u-toyama.ac.jp

(取材対応窓口、詳細の資料請求など)

国立大学法人富山大学 総務部総務・広報課

TEL : 076-445-6028

Fax : 076-445-6063

E-mail : kouhou@u-toyama.ac.jp